

北海道青年革新懇ニュース

10月16日

しゃべり場～政治や社会のことなどなど～

北海道青年革新懇は会員の「気になっていること」、「関心のある政治や社会のこと」などについて、好きなように話し合う“しゃべり場”を10月16日開催しました。

現在、北海道庁前にて原発再稼働への抗議活動が毎週金曜日に行われていますが、会員もそれぞれ参加したり、先月9月28日には、会員で抗議活動後に集まって食事もしたりしました。その抗議活動への参加者から、実行委員や参加者に対しての監視が強められているという話が挙がりました。実際、10月12日の抗議活動では、鳴り物に対しての監視などがありました。東京での抗議活動では、早期から『見守り弁護団』が結成され、弁護士が支援していますが、北海道でも弁護士が参加していますので、抗議活動の最中に何かあったら会場にいる実行委員や弁護士にSOSを伝える確認をしました。

また、原発の話は、毎週の抗議活動に留まらず、1万2000人が集まった「さよなら原発北海道1万人集会」のようすや、六ヶ所村の処理施設の実態が広まっていないという危機感、映画「100,000年後の安全」を見た感想、核廃棄物の地下処理施設についてなど多岐にわたりました。

原発や核兵器の問題など多くの問題につい

て、今後も議論していかななくてはいけないと思いました。

もちろん、他にもいろいろな問題があり、話題が尽きませんでした。例会に参加した会員からは司法修習生への貸与化の問題提起とともに、奨学金についての話が上がりました。司法修習生をはじめ、大学生の多くは奨学金を借りて学費などに充てていますが、その取立てが厳しくなっている現状を新聞記事なども見ながら話しました。“世界の常識、日本の非常識”である日本の奨学金制度は、若者にとっては大きな負担になっているし、今後の社会を担うためには重荷でしかないことは明らかでした。学校の先生にも奨学金についての認識がない方もいるようで、この奨学金の問題については、広く呼びかけなければならないと思いました。

そして、生活保護の問題については、芸能人へのパッシング報道や、役所での対応の問題など、多くの方が関心を寄せていることではあるかと思いますが、国保料の滞納と高額医療制度についても、役所にて窓際作戦が実施されている実態も報告されました。

私自身知らないことだらけでしたし、知らないだけでは済まされない問題ではないでしょうか。

今後も、広く声を集めて、私たちが何ができるのか議論していくことが必要であると感じました。(K)